

令和５年１０月１日から令和６年３月３１日までの財政の状況

（１）財政の動向

令和５年９月末の予算現額は、前年度からの繰越額を含めると９２９億９，４６０万２千円となっており、令和５年流山市第４回定例会に係る市野谷小学校の用地取得に係る経費、経済対策として国の交付金を活用した住民税非課税世帯に１世帯当たり７万円の給付金を支給するための経費、令和６年１月の専決処分による令和６年能登半島地震で甚大な被害を受けた姉妹都市である能登町へ代理で受け入れたふるさと納税寄付金を支出する経費、令和６年流山市第１回定例会に係る国の補正予算を活用した江戸川台小学校の大規模改修に係る経費などをそれぞれ計上したことなどにより、令和６年３月末の予算現額は、９９０億１，６７０万１千円となっている。

下期における予算現額を前年の３月末現在のものと比較すると、歳入では、市野谷小学校及び南流山第二小学校の開校、南流山中学校の移転事業等により国庫支出金が３７億９６４万６千円、市債が４２億４，１０９万７千円増額となった。一方、前年に続き地方交付税は３億９，０１５万円の減額となった。

また、歳出においては、同じく小学校の開校に係る経費等により教育費が５４億６，２９１万７千円増額となったほか、初石駅及び江戸川台駅東口周辺地区の整備事業などにより、土木費が３１億１，２４３万３千円増額となり、商工費は令和４年度に流山本町地区ツーリズム環境整備事業の一部整備が完了したこと等により３，１０１万９千円の減額となった。全体で歳入歳出は前年３月末現在と比べて１３６億４，５４４万１千円の増額となっている。

なお、一般会計と特別会計の令和６年３月末現在の執行状況は（３）収入及び支出の概況のとおりである。

（２）市長の財政方針

令和６年能登半島地震の発生により、姉妹都市である能登町からの要請を受けて直ちに職員を派遣したほか、令和６年２月１日には市長が流山市からの災害見舞金、同年１月３１日までに本市に寄せられた義援金、市内小中学校の児童・生徒が集めた義援金及びふるさと納税の代理寄付分、合わせて４，３２５万円の目録を渡すために能登町を訪問した。

本市においても備えを強化しておく必要があることから、甚大な

被害をもたらす地震が発生した際の指揮系統や災害対応について改めて確認し、避難所開設から一連の適切な対応と市民への情報提供に努めていく。能登町へ届けた備蓄品は、予備費を使用して補充を行った。また、人口増加に伴い相対的に病床数の割合が低下していることから、人口に相応した病床数を確保するための病院開設を目指して行政手続等を進めていく。

さて、本市は、全国でトップレベルの人口増加率を維持し続け、千葉県内では7年連続で人口増加数が第1位となった。今後も「緑豊かな良質な住環境」、「快適な都市環境」、「安心の長寿社会」「質の高い子育て・教育環境」を創出し、全ての方に「住み続ける価値の高いまち」づくりを進める。また、依然として資材等の物価や人件費が高騰し続ける厳しい社会情勢下において、費用対効果を念頭に限られた財源を効果的かつ効率的に活用することに努めるほか、事業内容及び優先順位を見直しの上、歳出削減を行うとともに、補助金などの財源を最大限活用することにより健全財政維持に努めていく。